



ななかまど

江別市立江別第一小学校
令和7年度学校だより
令和7年10月7日発行
第8号



夢をいだき 未来をひらく 江別第一小の子ども

○思いやりをもち 助け合う子（情） ○すすんで学び よく考える子（知）
○ねばり強く やりぬく子（意） ○心もからだも たくましい子（体）

URL <https://www2.ebetsu-city.ed.jp/daiiti-es/> 発行責任者 校長 庄 隆晃

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果の概要と今後の取組について

日増しに秋の深まりを感じる季節となりましたが、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動にご支援・ご協力をいただきまして感謝申し上げます。

さて、6年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」が4月17日（木）に実施されました。今年度は、「理科」も実施されました。この調査は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証して今後の学習指導の充実や改善等に役立てることを目的としております。以下に本校の児童の傾向と概要を示します。

なお、今回の調査結果は、学力全体を特定するものではなく、学校における教育活動の一側面であることを申し添えます。

国 語 「国語」全体としての結果

「全道平均・全国平均を上回りました」

【よくできた問題】

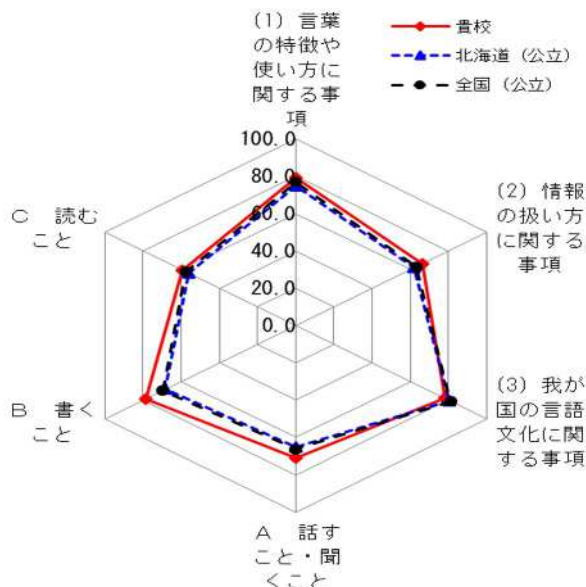
自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えることができるかどうかをみる。

→ 聞くことにおいては、自分はどのような情報を求めているのか、聞いた内容をどのように生かそうとしているのかなどを明確にして聞くことが重要です。今後も、対話や話し合い活動を充実させ、相手の意見や考えを引き出す聞き方ができるようにしていきます。

【あまりできなかった問題】

時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができるかどうかをみる。

→ 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えるためには、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大まかに捉えることが重要です。「初め・中・終わり」の文章構成や、「はじめに」「次に」といった順序を表す言葉、接続語について低学年から意識的に指導していきます。



算 数 「算数」全体としての結果

「全道平均・全国平均を上回りました」

【よくできた問題】

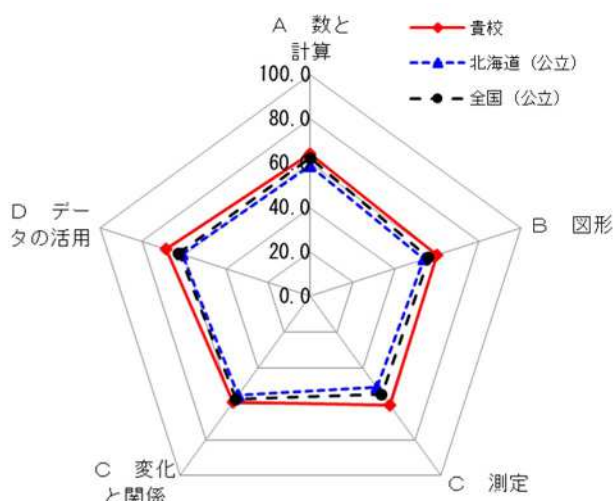
はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる。

→ はかりやものさし、数直線の目盛りを読む問題では最小目盛りの大きさに着目することが重要になりますが、よくできていました。今後も、身の回りのものの大きさを単位を用いて表現できるようにする学習活動を充実させていきます。

【あまりできなかった問題】

小数の加法について、数の相対的な大きさを用いて、共通する単位を捉えることができるかどうかをみる。

→ 小数や分数の計算では、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位（もとにする数）を見いだすことで、整数の計算として考えられるよう、くり返し指導していきます。



理科

「理科」全体としての結果

「全道平均・全国平均を上回りました」

【よくできた問題】

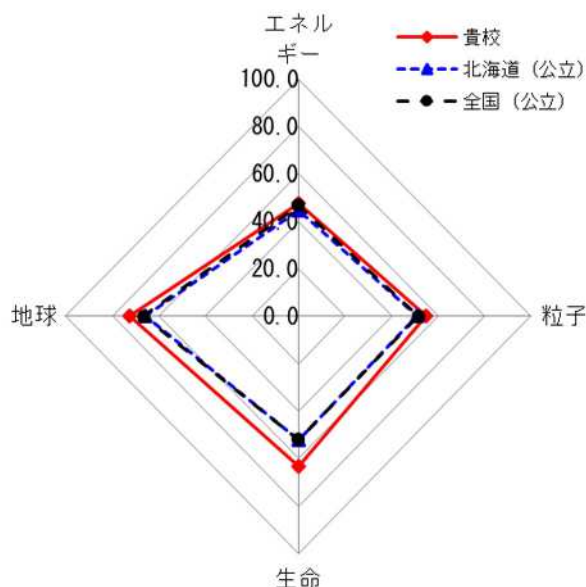
発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる。

→ 発芽に関する要因を挙げ、その要因を変える条件と変えない条件に区別しながら、予想や仮説を基に解決するための観察、実験の方法を計画していくのですが、よくできていました。引き続き、変える条件と変えない条件を整理しながら解決の方法を考えることの重要性について意識させていきます。

【あまりできなかった問題】

身の回りの金属について、電気を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いているかどうかをみる。

→ 3・4年の学習内容なので、忘れてしまっている子が多かったようです。「金属…鉄の他にもアルミニウムや銅などが含まれること」「鉄…たくさんある金属のなかの一つであること」「金属は電気を通す／鉄は磁石に引き付けられること」をもう一度確認する必要があります。



※理科や社会では、一度学習した内容がくり返し出てくるといいう機会が少ないものも多くあります。バラバラの知識で終わらないよう、宿題プリントやデジタルドリルを活用しながら、復習していきます。

児童質問紙

＜肯定的な回答の割合が全国平均と比べて高かった項目＞

①総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

②地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

③5年生までに受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか。

→ 一人一台端末となりました。調べ学習や学習内容のまとめの際には、タブレットを効果的に活用しています。「PC・タブレットなどのICT機器を使って～することができると思いますか」の問いについては、4項目すべてにおいて＋となっていました。

＜肯定的な回答の割合が全国平均と比べて低かった質問＞

①算数の勉強は得意ですか。

②これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか。

③算数の勉強は好きですか。

→ 算数の正答率では全国平均を上回っているのですが、「得意」「好き」と感じている児童が少ないことがわかります。算数において、「間違い」や「つまずき」は「成長のチャンス」と捉えられるよう、『リフレーミング』の考えを生かした前向きな声かけをし、「できた!」という成功体験を重ねることで、「嫌い」→「好き」→「得意」とつなげていきたいと考えています。

→ 全教職員で算数の「興味・関心を高める問題の提示方法」や「様々な方法で問題を解き、対話によって学びを深める指導方法」を重点に研究を行っています。今後も、算数に関する興味・関心を高め、物事を多面的に捉え考える力を育成していきます。

→ 学校行事以外での自然・文化的活動の機会が減ってきていることがうかがえます。観察・実験も含め、興味をもつ活動を体験したり、関心のあるテーマにかかわる知識・情報や技術に直接ふれたりする機会を確保していきたいと考えています。